

事例④「自他の理解能力」を高める実践 [小学校第4学年：道徳]



■ 山田小学校第4学年では、「自他の理解能力」を高めるために、道徳の授業で、総合学習との関連化を図りながら、次の学習活動の工夫を行いました。

※本事例では、総合的な学習の時間を「総合学習」と略して記述しています。

2つの主眼

学習活動の工夫

関連化の工夫

- 自然に恵まれている郷土を大切にしようという思いをふくらませ、よりよいまちづくりに積極的にいかかわっていかうとする心情を高める。
- [自他の理解能力]総合学習での共通体験から、主人公の思いを共感的に捉え、友達の考えと比べながら交流し、互いのよさを認め合う。
- 総合学習で学んでいる地域の自然を守るための活動を振り返らせ、郷土を思う心を見つめさせる場を設定する。
- 資料中の登場人物など、「客観者」から「主体者」として心情を追求したり、価値に迫らせたりする「だから?」「どんな?」などの発問をする。
- [導入]で総合学習での川の環境調査の活動で感じたことを活動時の写真をもとに振り返らせ、郷土愛という価値への方向付けを行う。
- [終末]で郷土の環境を守る地域の人たちの活動の様子をVTRで視聴し、自分や地域の方の郷土に対する思いを高めていくようにする。

〈総合学習と道徳を関連付けた実践〉

【総合学習】		
1 単元名	「猪野川の昔・今・未来」	
学習活動・内容	教師の手立て	意識の流れ
1 地域の川で遊んだ体験を話し合ったり、探検したりして、課題を設定する。	○猪野川にたくさんのほたるが舞っているVTRの映像を提示し、関心をもたせる。	・どうして猪野川にはほたるが飛んでいるんだろう。
【学習課題】 どうして、猪野川には、たくさんのほたるが飛んでいるのか調べよう。		
2 ほたるが飛んでいる理由について調査活動を行う。 ・ほたるが生息できる条件 ・猪野川で行われている活動 など	○コース別に調べたことをマップに表現させ、生息している地域や猪野川を守るための活動がどの辺りで行われているのか空間的に捉えさせる。	・猪野川にはえさとなるカワナがたくさんのいる。幼虫も元気な育って欲しいな。
【道徳】		
1 主題名	「自然を守るまちづくり」 4ー(5) 資料名「ほたるが飛ぶ森」(光村図書)	
2 本時の展開		
学習活動・内容	教師の手立て	学びをつくり出す能力
1 「猪野川調査」や「上水道見学」の共通体験を振り返り、本時めあてをつかむ。	○総合学習での活動の写真を提示し、感じたことや思ったことを振り返らせ、価値への方向付けを行う。	【自他の理解能力】
[めあて] 山田を大切に思う心をつくらそう。 [学習の見通し] ①「だから?」「どうして?」を使って質問 ②自分や友達の考えのよさを見つける ③お互いの考えのよさをもとにみんなの考えをまとめる		
2 資料を読み、郷土への思いが高まっていく主人公の気持ちを話し合う。 (1)ほたるが飛んだと聞いて、せせらぎの森に駆けつけた正太の気持ち (2)おじいちゃんや内田さんの様子を見ている正太の気持ち (3)数え切れないほどのほたるを見たときの正太の気持ち	○めあて提示後、現在全教科・領域で取り組んでいる学び方のポイントの確認を行い、意識付けを行う。  ○主人公の心情を主体的に追求させるために、まず、数名に発表させ、「だから?」「どんな?」などの補助発問を行い、それを参考にグループでの交流を行わせる。	○「だから?」「どんな?」などの質問を行ったり、質問に対する返答を行うことを通して、友達の考えのよさを見つけたり、自分の考えを明確にしたりする。
3 本時学習を振り返り、まとめる。 (1)地域を見つめ直し、みんなの力で郷土を維持・向上されていることを話し合う。 (2)自分の郷土への思いを見直す。	○地域の方と一緒に猪野川で活動した様子や地域の方が取り組んでいる猪野川の維持・向上のための活動の様子のVTRの映像を提示し、自分や地域の方のよさに気付かせ、郷土への思いを高めさせる。	○自分や友達のよさから学んだことを郷土に対する思いと今後のかかわり方を表現する。
【総合学習】		
学習活動・内容	教師の手立て	意識の流れ
3 学んだことを交流し、ほたるの飛び交う川の自然を未来に残すために自分ができることを考え、行動する。	○GTに昔の猪野川の様子やきれいな川を残すための活動に対する思いについて話してもらい、猪野川にかかわっていかうとする意欲を高めさせる。	・GTの方に負けない思いで、自分たちも猪野川を維持するための活動などに積極的にいかかわっていかう。

## 「自他の理解能力」を高める学習活動・評価活動の工夫

### 1 総合学習での体験活動の想起から課題意識を高める。

- (1) 体験活動の写真提示による、思いの掘り起こし
- (2) 郷土への思いを見つめ直す時間の確保



総合学習で猪野川の上流・中流・下流では川のきれいさが違うことが分かった。もっと川をきれいにしたい。

#### 「学習の見通し」

- ① 「だから?」「どうして?」を使って質問
- ② 自分や友達の考えのよさを見つける
- ③ お互いの考えのよさをもとにみんなの考えをまとめる



主人公は、「早くホテルを見たい。」と思ったのではないかと思います。

### 2 「自他の理解能力」を高めるため、「どうして?」「だから?」を使い、主体者として心情を追求する。

- (1) 代表児の発表に対する「どうして?」の補助発問
- (2) 「だから?」「どんな?」を使った主人公の心情に対する意見交換（グループ内）
- (3) グループで出た意見を全体で意見交換



「主人公は、どうしてそんな思いになったのでしょうか?」



私だったら「自分が育てたホテルが飛んでいるのかを早く見たい」と思うからです。



「だから?」などを使って、友達と意見交換を進めていこう!



### 3 地域を見つめ直し、郷土に対する思いをふくらませる。

- (1) 郷土の川の環境を守る人々の活動（VTR）の視聴
- (2) 郷土への思いが「どのようにふくらんだのか」を明確にする「だから?」の補助発問



自分たちも含めてたくさんの人たちの努力があるからこそ、この素晴らしい山田があるんだ。VTRで紹介された人たちと一緒に総合学習で活動できないな?

### 4 「めあて」と「学習の見通し」の振り返り、価値付ける。

- (1) 「めあて」(郷土への思いのふくらみ)の自己評価
- (2) 「学習の見通し」(自他のよさ)の自己評価
- (3) 2名の児童の発表と教師の価値付け



「だから?」などで質問しながら意見交換すると、自分の考えが明確になったり、友達の考えのよさが見えたりしますね!

#### この実践のよさ

- ◆ 本実践のよさは、自他の理解能力を高めるために、「学習の見通し」の段階で、教師が全体で数名に郷土への思いを発表をさせ、発表内容に対し、「だから?」「どうして?」と追加の発問を行い、主人公の心情を自分の心情と重ね合わせながら考えさせたことです。さらに、この手法をグループ活動でも生かしながら活動を行うことで、友達の考えのよさを見つけたり、自分の考えを明確にしたりすることにつながっています。
- ◆ このような学習活動の工夫は、コミュニケーション能力や選択能力を高めることにも効果があります。
- ◆ この事例では、総合学習と関連付けながら、道徳の授業を行ったことで、郷土愛に対する実感を伴った心情の高まりの姿を見出すことができ、その後の総合学習の活動にも有効に働きました。